

〔ナシ樹体ジョイント仕立ての検証による東京型改植モデルの確立〕
異なる樹形で樹体ジョイントした「稲城」の生育特性および作業時間
～ジョイント3年目～
杉田交啓・荒井那由他
(園芸技術科)

【要 約】ナシ樹体ジョイント仕立てジョイント3年目の生育は、平棚区よりV字区で平均枝長は長くなるが、両区で結果枝として十分な枝数と枝長を確保できる。着果管理時間は、枝長が長いV字区で平棚区より長くなる。

【目 的】

東京都における早期成園化技術を実証するために、特産品種である「稲城」の樹体ジョイント仕立て法（以下、ジョイント）を行い、樹形および品種の違いによる影響を明らかにしてきた。昨年度に引き続き、本年度は、ジョイント3年目の樹体生育を把握し、品種及び樹形の差を明らかにする。あわせて、作業時間についても評価する。

【方 法】

1. 所内沖積土圃場に2018年7月に定植した「あきづき、幸水、稲城」を用いた。樹形は平棚ジョイント（以下、平棚区）とV字ジョイント（以下、V字区）とした（図1）。植栽間隔は株間1.5m、列間3mとし（162本/10a）、3本/ユニットとし、各品種・各区3ユニット供試した。
2. 樹体生育については、発生部位ごとの枝数、枝長等について調査した。作業労力については、剪定、着果管理、新梢管理について調査した。
3. 栽培管理は、「ニホンナシの樹体ジョイント仕立て栽培管理マニュアル（神奈川農技セ）」を参考に行った。

【成果の概要】

1. 樹体生育：1樹あたりの枝数は「稲城」が多かった（表1）。長果枝の枝間隔は、どの品種も10cm前後だった。平均枝長は全品種でV字区が長く、平棚区の1.2～1.4倍になった。全ての区で、結果枝として十分な枝数と枝長が確保できた。
2. 部位別発生状況：部位別の枝数は、全体的に長果枝の割合が高かった（図2）。基部は樹勢が強くなりやすく、長果枝数が多く、枝長も長くなった。基部に比べると、先端の樹勢が弱い傾向があった。
3. 作業性：着果管理時間は、「あきづき、幸水」のV字区で長くなった。「稲城」の両区で着果管理時間が他品種より少なかったが、これは着果率が低かった影響である。剪定および新梢管理時間は樹形により大きな差はなかった。

【残された課題・成果の活用・留意点】

1. 引き続き、4年目以降の生育特性を明らかにする。
2. 部位別の樹勢差を少なくするように冬期剪定で調整する。

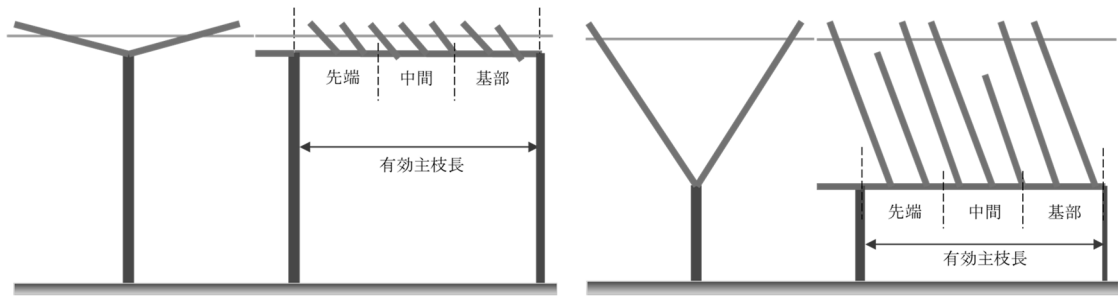


図1 樹形の模式図（左：平棚ジョイント，右：V字ジョイント）

表1 ナンジョイント樹の樹体状況

品種	樹形	有効主枝長 (cm)	2021年度					2020年度			
			枝数 ^a (本/樹)	枝間隔 (cm)		枝長 (cm)	枝数 (本/樹)	枝間隔 (cm)	枝長 (cm)		
あきづき	平棚	190.3	24.0	18.0	7.9	10.6	86.6	—	22.0	8.7	52.3
	V字	193.2	22.6	16.1	8.6	12.0	126.2	146%	24.0	8.1	71.9
幸水	平棚	175.0	21.9	16.7	8.0	10.5	87.8	—	18.1	9.7	59.8
	V字	191.7	21.9	17.3	8.8	11.1	124.0	141%	24.9	7.7	73.6
稲城	平棚	180.7	27.9	18.6	6.5	9.7	87.7	—	25.3	7.1	54.0
	V字	188.0	26.2	18.7	7.2	10.1	106.5	121%	25.8	7.3	67.7

注) 2021年11月15日，2020年11月13日。

a) 短・中果枝（10cm以下）と長果枝（10cm以上）の合計。長果枝は予備枝も含む。

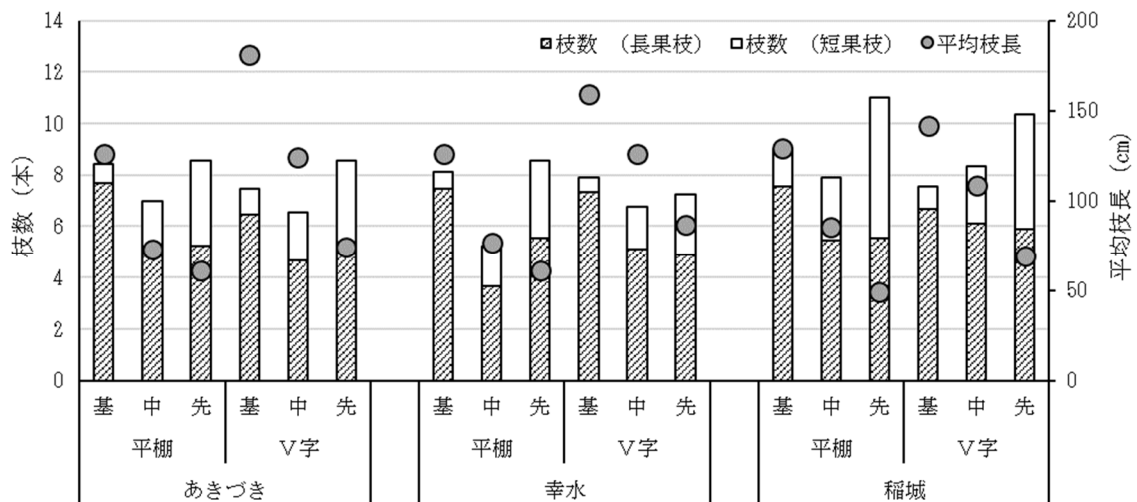


図2 ナンジョイント樹の部位発生枝数および枝長

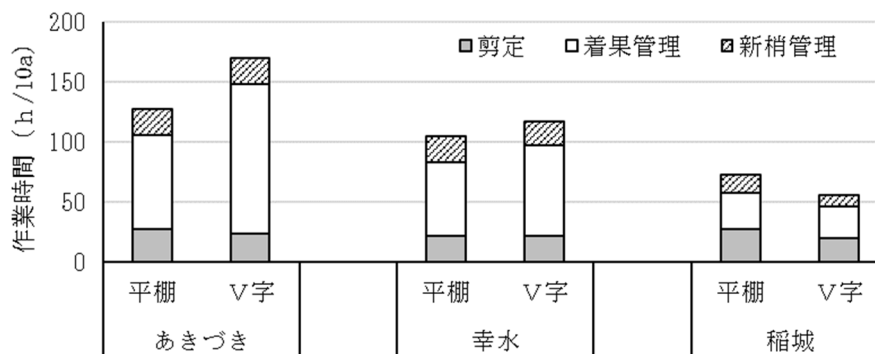


図3 品種および樹形の違いが作業時間に及ぼす影響

注) 着果管理は，摘蕾・受粉・小花とり・摘果・袋かけの合計。新梢管理は，摘芯・誘引の合計。